

# School of Health Innovation 2026

公立大学法人 神奈川県立保健福祉大学大学院  
ヘルスイノベーション研究科



ヘルスイノベーションスクール 検索

[www.kuhs.ac.jp/shi/](http://www.kuhs.ac.jp/shi/)

公立大学法人神奈川県立保健福祉大学大学院  
ヘルスイノベーション研究科  
(ヘルスイノベーションスクール(略称:SHI))

- 取得学位：修士(公衆衛生学) 博士(公衆衛生学)
- 修業年数：2年(修士課程) 3年(博士課程)
- 入学定員：1学年15人 1学年2人
- 授業時間：平日夜間(18:40-21:50)  
土曜日(9:00-17:50)  
※カリキュラム編成により異なる場合があります

• 講義言語：英語、日本語

TEL. 044-589-8100

〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町3-25-10

Research Gate Building TONOMACHI 2-A棟 2・3階



## 交通アクセス

京浜急行大師線  
「小島新田駅」から  
徒歩15分





# 次世代の ヘルスイノベーターを 育成する。

「人生100歳時代」を見据える日本。

世界有数の長寿大国として抱える課題は大きい。

少子高齢化に伴って生じる社会構造のダイナミックな変化に、  
従来のシステムでは対応しきれないのが現実です。

だからこそ、世界に先駆けて取り組んでいく。

一人ひとりが健やかな人生を送れる社会を築くために、  
神奈川県の掲げる新しい「未病」コンセプトをベースに、  
テクノロジーのみならず社会システムにも革新をもたらしていく。  
それが、ヘルスイノベーションスクールの使命です。

既成概念にとらわれない科学的根拠にもとづいた解決策を模索し、  
健やかな明日の社会を様々な専門性を持つ人々と共に創っていきたい。

この想いに共感してくれる、あなたへ。

ヘルスイノベーションのチームに加わりませんか。



世界の高齢化問題を解決する  
新たな学問の第一人者となろう

公立大学法人  
神奈川県立保健福祉大学  
副学長 兼  
ヘルスイノベーション研究科長  
**鄭 雄一**

ヘルスイノベーション研究科(SHI)は、高齢社会を支える新しい健康観「未病」を研究対象とし、世界に先駆けて学問体系化を目指す、これまでにない研究・教育機関です。日本はもちろん、グローバルにおける健康長寿社会の実現に寄与する学問領域を切り拓き、それを担う人材を育成していくことに、研究科長として大きなやりがいを感じています。SHIは、公衆衛生学をベースとしながら、保健・医療・福祉にイノベーションを起こす上で必要な視点やスキルを磨くカリキュラムを充実させています。「未病」「最先端医療技術」などの先進領域を学ぶ科目、「アントレpreneurship」をはじめとしたビジネス関連科目、

そしてビッグデータやAIを用いた健康リスクの予測について学ぶ「データサイエンス」などが特徴的です。また学び方もユニークで、なかでも、社会実装を目標とした研究活動を行う点は特筆すべきでしょう。神奈川県はもちろん、WHO(世界保健機関)や海外大学といった県のグローバルネットワークを活かしたフィールドワークの機会が多く提供されます。SHIでの学びは、研究が県政に反映される可能性があるチャレンジングな環境であり、グローバルな課題解決の最前線に携わる近道でもあるのです。好奇心にあふれ、何か新しいことをやってみたいと意欲を燃やす方に、ぜひ参加していただきたいと思います。

## 修士課程

# 養成する人材

## 4タイプのイノベーターを養成

公衆衛生学を基盤とし、イノベーションの創出に取り組む、「リサーチャー」「ビジネスパーソン」「アドミニストレータ」「ポリシーメーカー」の4タイプの人材を育成します。先端技術やデータサイエンス、アドミニストレーションなど、幅広い知識や能力を持ち、多様なステークホルダーと協働できる専門人材になることを目指します。

### リサーチャー

技術革新や、その基礎となる技術の研究・開発ができる人材へ  
トランセディシplinaryな研究に携わる人材や、保健・医療・福祉分野に関する科学技術コミュニケーション者を目指す人材を育成します。さらに、未病の領域についてエビデンスを探求し、新たな学問領域の構築や未病の学問体系化を志す人材、次世代の新たな価値を生み出せる人材に成長できます。

#### 具体的な進路

- ①大学などの研究機関において、保健・医療・福祉課題の解決に向けた研究を遂行する研究者
- ②企業などにおいて、保健・医療・福祉課題の解決に資する製品・サービス等の開発をする研究者
- ③医療機関などにおいて、患者や国民の健康に資する研究などに携わる医療提供者・研究者

### ビジネスパーソン

革新的な技術を具体的に産業化できる人材へ  
ヘルスケア産業、その他のIT、サービス、食品関連企業などで、未病産業などの新しいビジネスを興せる人材の輩出を目指します。  
また、社会的な課題に対して、新たなテクノロジーを活用し、課題の解決へと導くことができるソーシャルアントレプレナーなどの人材を育成します。

#### 具体的な進路

- ①ヘルスケア関連企業で、技術・サービス・製品等の開発や社会実装・国際展開に取り組む職員
- ②ヘルスケア関連企業で、社会的ニーズを汲み取り、経営戦略を立案する職員
- ③社会的ニーズに対応した医療技術・サービスを提供する新たな事業を興す企業家

### アドミニストレータ

組織管理に革新を起こし、効率的な保健医療サービスを提供できる人材へ  
未病の観点や、地域のニーズを踏まえた医療サービスを展開するために必要な知識と技術を習得することができます。行政・研究者・企業などとも連携しながら、次世代の保健医療サービスのあり方をデザインし、組織経営ができる人材を育成します。

#### 具体的な進路

- ①急性期病院や高度な健診機能を備えた医療機関などで、組織経営に参画することを志す職員
- ②高度な医療サービスの国際展開を目指す医療機関などにおいて、組織経営に参画することを志す職員
- ③効率的で質の高いケアの提供を目指す介護施設などにおいて、組織経営に参画することを志す職員

### ポリシーメーカー

組織・人材を繋ぎ、革新的な社会システムをつくることができる人材へ  
地域や自治体が抱える保健・医療・福祉課題を発見し、社会制度や多様なステークホルダーのニーズを踏まえて、課題の分析や解決策の提言を行える人材を育成します。

#### 具体的な進路

- ①保健・医療・福祉課題を体系的に理解し、多様なステークホルダーを繋ぐことができる自治体職員
- ②国連、WHO、JICAなど保健・医療・福祉課題に取り組む国際的機関の職員
- ③ASEAN諸国を中心とした中央政府や地方自治体で保健・医療・福祉政策を担当する職員



## 修士課程

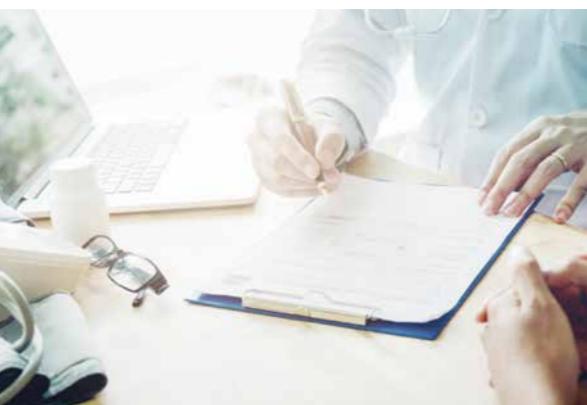
# 学ぶこと



### 共通科目

本研究科の理念を修得

本学の理念である「ヒューマンサービス」や、本研究科が追究する「ヘルスイノベーション」や「未病」のコンセプトの基本概念について共有し、カリキュラムの全貌を俯瞰するための科目を設置。また、現代のイノベーションに不可欠な「データサイエンス」や「ヘルスイノベーションにおける責任ある研究・イノベーション」など、専門科目への架橋となる基本的な知識・能力を習得します。



### ヘルスイノベーション専門科目

次世代を牽引するイノベーション人材の育成のための科目

個人の興味関心に合わせた履修が可能

新たな課題解決の方策を立案するため、革新的なテクノロジーやデータサイエンス、組織管理に欠かせないビジネス科目など、多面的な観点から科目を配置。従来のシステムでは対応しきれない課題解決に資するイノベーションの創出に向けて、学際的アプローチを目指します。

### 実践・特別研究科目

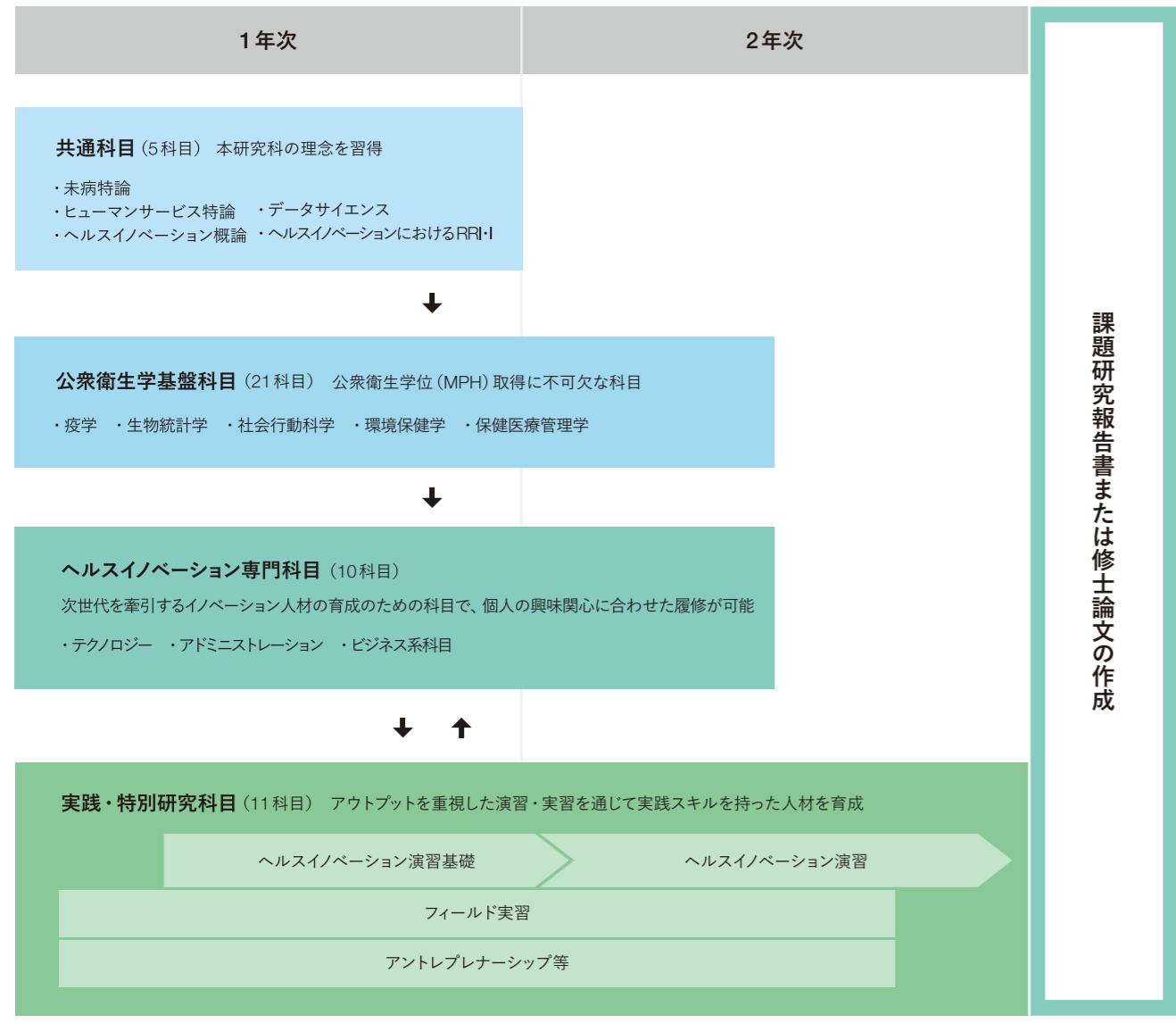
アウトプットを重視した演習・実習を通じて実践スキルを持った人材を育成

学んだ知識や能力を活用する実践的な演習・実習科目を配置し、ヘルスイノベーションの実現に向けた手法を経験します。新たな事業創造について学ぶ「アントレプレナーシップ」や、様々なステークホルダーを動かすための「アカデミックプレゼンテーション」を設置するほか、社会における取り組みを経験するために「フィールド実習」を配置し、実践的かつ能動的な学びの場を提供します。

修士課程

# カリキュラム

次世代のヘルスイノベーターの育成を目指し、保健・医療・福祉・公衆衛生や経営管理・イノベーション手法、多面的な視点から導く課題解決・プロジェクト実行力などの高い知識を得るために、2年間で学んでいきます。



科目区分	授業科目	配当年次	単位数		講義言語 日本語 英語	備考
			必修	選択		
共通科目	未病特論	1年次後期	1			●
	ヒューマンサービス特論	1年次前期		1	●	
	ヘルスイノベーション概論	1年次前期	1		●	
	データサイエンス	1年次前期	1		●	
	ヘルスイノベーションにおける「責任ある研究・イノベーション(RRI)」I	1年次前期	1		●	
	小計(5科目)		4	1		
公衆衛生学 基盤科目	疫学領域	疫学概論	1年次前期	2		●
	疫学研究	1年次前期		2	●	
	疫学研究(英語)	1年次前期		2	●	
	疫学演習	1年次後期		2	●	
	疫学演習(英語)	1年次後期		2	●	
	臨床研究マネジメント	2年次前期		1	●	
	小計(6科目)		2	9		
	生物統計学領域	生物統計学基礎	1年次前期	2		●
	統計プログラミング	2年次前期		2	●	
	生物統計学実践	2年次前期		2	●	
	研究の技法	2年次前期		1	●	●
	小計(4科目)		2	5		
	社会行動科学領域	健康行動科学	1年次前期	2		●
	ヘルスコミュニケーション	1年次後期		2	●	
	フィールド調査・研究方法	1年次前期		2	●	
	社会健康学・社会疫学	1年次後期		2	●	
	小計(4科目)		2	6		
	環境保健学領域	環境保健学	1年次前期	1		●
	産業保健学	1年次後期		2	●	
	産業保健学演習	2年次前期		1	●	
	小計(3科目)		1	3		
	保健医療管理学領域	健康・医療政策	1年次前期	2		●
	国際保健政策	1年次後期		1	●	
	医療経済学	1年次前期		2		●
	ヘルスケア管理学	2年次前期		2	●	
	小計(4科目)		2	5		
	小計(21科目)		9	28		
ヘルス イノベーション 専門科目	健康危機管理論A(英語)	1年次後期		1		●
	健康危機管理論B(日本語)	1年次後期		1	●	
	未病社会のライフデザイン	1年次後期		2		●
	ヒューマン・ニュートリション	1年次前期		1		●
	ファイナンス・アカウンティング	2年次前期		2		●
	マーケティング・ストラテジー	1年次後期		2		●
	医療技術評価	2年次前期		2	●	
	健康教育劇場／Health Education Theater	1年次後期		2	●	●
	口腔保健特論	2年次前期		2		●
	レギュラトリーサイエンス概論	1年次後期		1	●	
	小計(10科目)		0	16		
実践・特別 研究科目	アカデミックプレゼンテーション	1年次前期		1		●
	アカデミックライティング	1年次前期		1		●
	アントレプレナーシップI(アイデア創出)	1年次後期		1		●
	アントレプレナーシップII(ビジネスモデル仮説検証)	2年次前期		2		●
	政策分析・政策立案演習	1年次後期		2	●	
	フィールド実習IA	1-2年次通年		2	●	●
	フィールド実習IB	1-2年次通年		2	●	●
	フィールド実習IIA	1-2年次通年		4	●	●
	フィールド実習IIB	1-2年次通年		4	●	●
	ヘルスイノベーション演習基礎	1年次後期		2	●	●
	ヘルスイノベーション演習	2年次通年		6	●	●
	小計(11科目)		8	19		
合計	47科目			21	64	

## ディプロマ・ポリシー 修士(公衆衛生学)

## 本修士課程は、本研究科規則

に定められた教育課程の所定単位を修め、修士論文または特定の課題についての研究成果に関する報告書を提出し、その審査および最終試験に合格した者に、修士（公衆衛生学）の学位を授与します。

## 1. 知識習得と評価分析スキル

現代における公衆衛生・保健・医療・福祉の現状、最新のテクノロジーや社会システムを把握し、科学的な評価・分析に基づいて課題を抽出できる能力を身につけていくこと。

## 2 分析結果に対する改善提案スキーム

科学的根拠に基づいた革新的な課題解決の方策を検討できる能力を身につけていくこと

### 3 会意形成・發信ツキル

多様な背景を持った人や組織間での合意形成を実現するため、多面的な視点から物事を捉える能力、プレゼンテーション・コミュニケーション・語学能力を身につけていくこと

#### 4 業務遂行・組織管理スキル

組織が限られた資源を有効かつ効率的に活用して課題解決を実現させるための、計画・管理・実行能力を身につけていくこと

必修科目21単位、選択科目から21単位以上を修得し、42単位以上修得すること。

科目区分ごとに、共通科目から4単位以上、公衆衛生学基礎科目から14単位以上、ヘルスインノベーション専門科目から6単位以上、実践・特別研究科目から11単位以上を修得すること。

## 修士課程

### 履修モデル

※=必修科目

#### リサーチャー

大学や研究機関などで保健・医療・福祉分野における研究者として質の高い研究・開発を行うことを目指す。

##### 共通科目

##### 公衆衛生学基盤科目

- ・未病特論※
- ・ヒューマンサービス特論
- ・ヘルスイノベーション概論※
- ・データサイエンス※
- ・ヘルスイノベーションにおけるRRI・I※

##### ヘルスイノベーション専門科目

- ・疫学概論※・疫学研究・疫学演習
- ・臨床研究マネジメント
- ・生物統計学基礎※・統計プログラミング
- ・生物統計学実践
- ・研究の技法・健康行動科学※
- ・環境保健学※・医療経済学※

##### 実践・特別研究科目

- ・医療技術評価
- ・口腔保健特論
- ・レギュラトリーサイエンス概論

## 博士課程

### 養成する人材

#### 4タイプの国際的高度専門人材を養成

公衆衛生の視点による科学的根拠に基づいたアプローチによって社会変革に意を尽くし、国際社会の将来を牽引することができる、「高度研究人材」「高度マネジメントリーダー」「高度ヘルスケアプロバイダ」「高度ポリシーメーカー」の4タイプの国際的高度専門人材を育成します。



#### ビジネスパーソン

ビジネスの領域における課題を発見し、社会制度やシステムも踏まえた課題の分析や現実的な解決策を提言できるようになることを目指す。

##### 共通科目

##### 公衆衛生学基盤科目

- ・未病特論※
- ・ヒューマンサービス特論
- ・ヘルスイノベーション概論※
- ・データサイエンス※
- ・ヘルスイノベーションにおけるRRI・I※

##### ヘルスイノベーション専門科目

- ・疫学概論※
- ・生物統計学基礎※
- ・健康行動科学※
- ・フィールド調査・研究方法
- ・環境保健学※・健康/医療政策
- ・医療経済学※

##### 実践・特別研究科目

- ・ファイナンス/アカウンティング
- ・マーケティング/ストラテジー
- ・医療技術評価
- ・レギュラトリーサイエンス概論

#### 高度研究人材

国内外の教育研究機関や企業内研究所などにおいて、保健・医療・福祉分野の課題解決に繋がる技術や社会システムの革新に関する高度な研究・開発を自ら行い、また牽引することができるリーダー人材を育成します。

##### 具体的な進路

- 教育研究機関や企業研究所などにおいて、未病などの新たな学問体系を含む、保健・医療・福祉分野やトランスディシプリンアリー研究分野における研究を自ら実施し、またそのような研究を牽引する研究者



#### アドミニストレータ

保健・医療・福祉機関が抱える組織経営上の課題や医療サービス提供上の課題を発見し、社会制度や地域の様々なニーズを踏まえて課題の分析や解決策の提言を行えるようになることを目指す。

##### 共通科目

##### 公衆衛生学基盤科目

- ・未病特論※
- ・ヒューマンサービス特論
- ・ヘルスイノベーション概論※
- ・データサイエンス※
- ・ヘルスイノベーションにおけるRRI・I※

##### ヘルスイノベーション専門科目

- ・疫学概論※
- ・生物統計学基礎※
- ・健康行動科学※
- ・ヘルスコミュニケーション・環境保健学※
- ・産業保健学・産業保健学演習
- ・医療経済学※・ヘルスケア管理学

##### 実践・特別研究科目

- ・健康危機管理論A
- ・健康危機管理論B
- ・ファイナンス/アカウンティング
- ・マーケティング/ストラテジー
- ・フィールド実習IA
- ・健康教育劇場
- ・Health Education Theater

#### 高度マネジメントリーダー

国際的企業や非営利法人などにおいて、保健・医療・福祉分野の課題解決に繋がる革新的な技術やサービスを具体的に産業化・組織化し、グローバルに展開するために組織を牽引できるリーダー人材を育成します。

##### 具体的な進路

- NPO/NGOにおいて、革新的な製品やサービス・ビジネスプロセスを展開するために、組織を牽引するリーダーとして活躍する職員
- アントレプレナー・ソーシャルアントレプレナーとして企業や非営利組織などを起業し、課題解決に向けてビジネスを牽引する起業家



#### ポリシーメーカー

地域が抱える保健・医療・福祉課題や自治体組織が抱える課題を発見し、社会制度や多様なステークホルダーのニーズを踏まえて課題の分析や解決策の提言を行えるようになることを目指す。

##### 共通科目

##### 公衆衛生学基盤科目

- ・未病特論※
- ・ヒューマンサービス特論
- ・ヘルスイノベーション概論※
- ・データサイエンス※
- ・ヘルスイノベーションにおけるRRI・I※

##### ヘルスイノベーション専門科目

- ・疫学概論※
- ・生物統計学基礎※
- ・健康行動科学※
- ・社会健康学/社会疫学
- ・環境保健学※・健康/医療政策
- ・国際保健政策・医療経済学※

##### 実践・特別研究科目

- ・健康危機管理論A
- ・健康危機管理論B
- ・未病社会のライフデザイン
- ・ヒューマンニュートリション
- ・健康教育劇場
- ・Health Education Theater
- ・レギュラトリーサイエンス概論

#### 高度ヘルスケアプロバイダ

病院をはじめとした保健・医療・福祉サービスの提供組織などにおいて、地域や国際社会のニーズに則したサービスを高度かつ効果的・効率的に提供するために組織を牽引することができるリーダー人材を育成します。

##### 具体的な進路

- 病院などの医療機関、介護施設、薬局などの組織において、ニーズに則した保健・医療・福祉サービス提供を効果的・効率的に行うべく、組織を牽引する管理者・経営者



#### 高度ポリシーメーカー

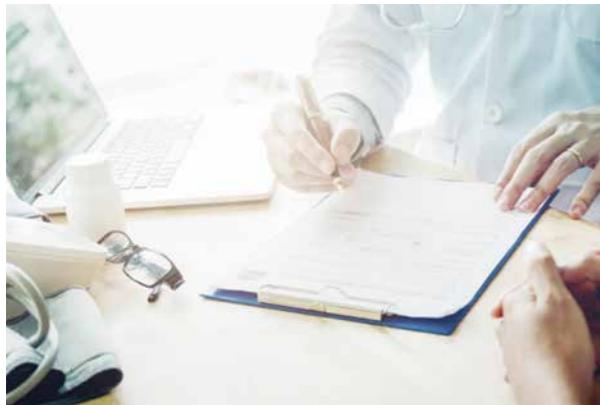
国際機関や行政機関などにおいて、保健・医療・福祉分野の課題解決に取り組む様々な組織や人材などを繋ぎ、保健・医療・福祉課題の解決に資するエコシステムをグローバルに構築することができるリーダー人材を育成します。

##### 具体的な進路

- 自治体・行政機関・国際機関において、自らの専門性を駆使して多様なステークホルダーを繋げ、従来の枠組みを超えた、組織を牽引する高度行政官

## 博士課程

### 学ぶこと



#### パブリックヘルス Doctor of Philosophy(Ph.D.)

「疫学」「生物統計学」等の公衆衛生学5領域全般に関する専門的な知識・技法を学ぶ科目を、共通科目として配置。また5領域ごとに、自ら課題解決に取り組み、研究計画の作成及び発表ができる能力を養成するための「特別演習科目」も配置しています。個々のこれまでの履修状況に応じて、本研究科修士課程で提供している、公衆衛生学やイノベーションに関する科目を受講することも可能です。



#### イノベーション

従来の手法やパラダイムでは解決し得ない保健・医療・福祉課題に対処するため、共通科目の履修を通して、イノベーションの技法を、また特別演習科目で複数の領域を履修することでイノベーションに不可欠なトランスディシプリンアリー教育を実践します。



#### 国際的 高度専門人材として

共通科目の履修を通して、国際的高度専門人材に求められる、生命倫理・研究倫理、さらには、政策理念としての倫理観と価値規範を涵養します。



#### 実践的な課題解決に 向けた研究

研究、産業、保健・医療・福祉提供、行政などの領域における保健・医療・福祉分野の具体的な課題を自ら設定し、実践的な課題解決に向けた方策について探求し、研究を遂行します。

## 博士課程

### カリキュラム

博士課程カリキュラム 全体像	1年次	2年次	3年次
<b>共通科目</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>パブリックヘルス・リーダーシップ特講</li> <li>世界の健康課題とイノベーション特講</li> </ul>			
<b>特別演習科目</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>疫学</li> <li>生物統計学</li> <li>社会行動科学</li> <li>環境保健学</li> <li>保健医療管理学</li> </ul> ※2領域選択必修			
<b>特別研究科目</b>			
<p>↓ 必要に応じて</p> <p><b>ヘルスイノベーション研究科(修士課程)【リメディアル】</b> 公衆衛生学の知識が不足している人、詳しく学び直したい人は、修士課程の科目を履修。 【修士課程:公衆衛生学基盤科目21科目、ヘルスイノベーション専門科目10科目等が履修可能】</p>			
授業科目			
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数
共通科目	パブリックヘルス・リーダーシップ特講	1年次前期	2
	世界の健康課題とイノベーション特講	1年次後期	1
特別 演習科目	疫学特別演習	1年次通年	2
	生物統計学特別演習	1年次通年	2
	社会行動科学特別演習	1年次通年	2
	環境保健学特別演習	1年次通年	2
	保健医療管理学特別演習	1年次通年	2
特別 研究科目	ヘルスイノベーション特別研究	1-3年次通年	12
			12単位 以上取得

必修15単位+選択4単位の合計19単位以上を修得

#### ディプロマ・ポリシー 博士(公衆衛生学)

本博士課程では、本研究科規則に定められた教育課程の所定単位を修め、博士論文を提出の上、その審査および最終試験に合格した者に、博士(公衆衛生学)の学位を授与します。審査にあたっては、以下の点に到達していることを目安とします。

- ① 現代における保健医療の諸課題、最新のテクノロジーや社会システムを深く理解し、科学的な評価・分析に基づいて課題を抽出し、科学的根拠に基づいた革新的な課題解決の方策を提示することを通じて、保健・医療・福祉における新たな社会的・経済的価値を生み出すことができる能力を身につけています。
- ② 保健・医療・福祉の向上を担う国際的高度専門人材として、研究、産業、保健・医療・福祉提供、行政などそれぞれの領域において、国内外におけるリーダーシップを発揮できる学術性・専門性・教養・倫理観及び価値規範を有していること。



## 学びかた



### 社会人が学びやすい環境

勤務を継続しながら学ぶことができるよう、講義は平日夜間や土曜日を中心開講。また、一部の科目ではメディア併用した授業を行うことで、通学の負担を軽減するなど、社会人が学びやすい環境が整っています。



### アクティブ・ラーニング

イノベーションの創出を目指して、能動的な学習を促進し、高い情報発信力を身につけるため、講義ではグループワークやプレゼンテーションを重視したアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れます。知識の習得自体は、可能な限り予習やICTを用いた講義を活用します。



### 英語による講義

国際的人材としての能力を身につけるために、またトランスディシプリナリーな環境を創造する上で、英語によるコミュニケーションは不可欠なスキルです。そこで、英語による授業を多く開講し、英語による授業のみでも修了できるカリキュラムを構築しています。なお、必ずしも始めから高い英語力がなくとも授業の理解が深まるよう、教員による学習上の支援や配慮を行います。



### 様々なネットワークの活用

県立大学という本学の特性を活かし、神奈川県が持つネットワークを活用した研究や実践が期待できます。例えばフィールド実習では、県庁や関係機関における実習なども想定されます。また、本学は国内外の研究機関や国際機関と連携を図っており、世界保健機関（WHO）や欧米・ASEAN諸国などの大学などと連携した教育研究も行います。

## 在学生・修了生の声



在学生 西前 純子さん

履修モデル ビジネスパーソン

政治経済学部卒業後、食品事業、医薬品事業を有する日系企業に勤務。営業、マーケティング、人事、広報と各部門での幅広い経験を経て、現在は健康関連の新規事業開発やスタートアップ投資に従事。新規事業でゼロからビジネスを立ち上げる経験を複数重ねており、社会実装で世の中に広く展開する際の課題設定や手法に精通する。

多様な背景を持ったクラスメイト意見を掛け合わせることでディスカッションの質がアップ

クラスメイトは世代が幅広く、かつキャリアは行政職、医療従事者、民間企業、学生などさまざま。授業でのディスカッションでは、仕事での会議に比べて自分の意見とは大きく異なる意見を聞く機会が多くあります。自分が見ている世界や思考の幅の狭さを感じると同時に、多様な価値観、視点からの意見を掛け合わせることでディスカッションの質が上がることを実感しています。授業で多くの研究論文を読み、批判的に読むのを学んだことで、仕事で開発に携わる商品やサービスを支えるエビデンスに対する見方が変わりました。また、現在従事している新規事業開発では、行動変容は非常に重要な要素となります。健康行動科学の授業で理論を学び、それらを仕事上のサービス開発に取り入れるようになったこともSHIでの学びが仕事に活かされた点です。これからSHIへの入学を志す方にお伝えしたいのは、クラスに対して自分が貢献できることは何か、自分の強みや経験を活かすことで全体の学びが向上するにはどうすればよいかを日ごろから意識すること。それが間違いくよりよい学びにつながっていくと思います。

クラスを通じて知識が深まり  
超高齢社会やヘルスケアの課題を  
より明確に捉えられるようになった

超高齢社会が到来し、「健康」というテーマがクローズアップされるなかで、街づくりにおいても、地域にお住まいの方のウェルビーイングをどう実現していくかに关心を持っていました。また職場では病院運営や予防医療の推進に携わっていたこともあり、ヘルスケア分野の体系的な知識を深め、神奈川県が提唱する「未病」の考え方を理解することで、仕事や将来の街づくりに活かすヒントを得たいと思いSHIに入学しました。特に大学院1年目は不慣れな環境のなかで仕事との両立は大変でしたが、平日夜と土曜日を基本としたクラス構成やオンライン併用授業のおかげで柔軟に学ぶことができました。また様々なバックグラウンドを持つ社会人学生や留学生と一緒に学ぶことは自身の視野を広げるとともに、SHIが持つ神奈川県との強いネットワークも魅力でした。修士論文のテーマは高齢者向けの「通いの場」を扱いましたが、SHIでの学びを通じて超高齢社会やヘルスケア産業が抱える問題点や課題に対する理解が一層深まり、より多角的な視点を持てるようになったと実感しています。



修了生 勝田 雄司さん

履修モデル ビジネスパーソン

大学時代は法学部で学び、卒業後、街づくりをコアビジネスとする民間企業に入社。一般管理部門を経験後、不動産開発部門において分譲住宅の企画・事業推進や、経理管理業務などに従事。2020年に会社が所有する企業立病院に異動し、現在まで運営業務に携わっている。

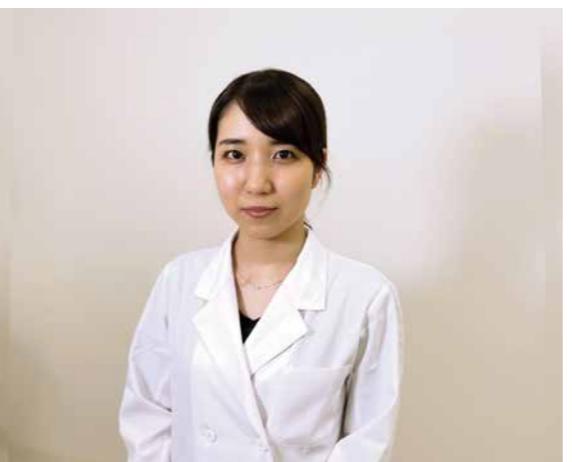


## 県立のSHIの強みを実感 社会実装の場が近接していて 具体的な研究や取り組みを経験できる

入学前は、行政で働く保健師として、住民や地域の健康支援に対する使命感や責務を強く抱きながら働いていました。現在もその思いは変わりませんが、SHIで多様な背景を持つ学友との交流やヘルスインベーションをけん引する組織の方のお話を伺うなかで、産官学そして住民との協働によるヘルスケアの可能性を感じるようになりました。修士研究では、市町村の生活習慣病対策におけるデータ利活用の現状と課題の探索をテーマにしています。この研究は、市町村の事業や都道府県の市町村支援の効果的な取り組みに寄与できるものです。修了後もこのテーマを発展させ、効果的な生活習慣病対策を行っていきたいと考えています。SHIは県立で、研究と社会実装の場が近接していることが特徴です。神奈川県をはじめとしたフィールドが数多く提供され、健康課題に対する具体的な研究や取り組みを経験できるのは貴重です。SHIでの学びを通して、他分野・他職種と協働しながら住民の健康や地域づくりをサポートする力を身につけ、所属する自治体の公衆衛生に貢献していきたいですね。

在学生 **行竹 三紀恵さん**  
履修モデル ポリシーメーカー

大学では看護学を専攻し、看護師免許と保健師免許を取得。卒業後は、現在在籍する自治体に保健師として入庁。保健師の専門性をもって、他分野・他職種と協働しながら住民の健康や地域づくりをサポートできる「仕組みづくり」が重要であると感じ、行政で働く保健師として特に政策形成能力を向上したいという思いからSHIに入学した。



在学生 **佐藤 杏さん**  
履修モデル リサーチャー

学士課程で看護師免許を取得後、修士課程(医科学)に進学し、認定遺伝カウンセラー資格を取得。現在は神奈川県立がんセンター遺伝診療科で、年間250件以上の遺伝カウンセリングを担当。加えて、AIを活用した遺伝性腫瘍拾い上げシステムの開発・実装・多施設共同研究にも従事している。

## 遺伝診療へのアクセス格差なくし、 誰もが適切な医療を受けられる 社会を目指して

遺伝診療は、治療だけでなく個別化予防医療にも活用できる可能性を持っています。その技術を実際の医療現場にどう活かし、社会全体にとって持続可能な利益につなげていくかを考えることが大切だと感じました。多様なバックグラウンドを持つ教授陣が揃うSHIなら、多角的な視点で問題解決に取り組み、深い洞察力を養えると考え、博士課程への進学を決めました。現在は「Practical Application of Artificial Intelligence in Hereditary Cancer(遺伝性腫瘍におけるAIの実用化)」をテーマに、神奈川県立がんセンターで開発したAIを活用した遺伝性腫瘍拾い上げシステムの有用性を評価する研究に取り組んでいます。将来的には、遺伝診療に限らず、医療全体におけるアクセス格差の解消に貢献したいと考えています。AIなどのテクノロジーを活用し、どこに住んでいても適切な医療にアクセスできる仕組みを構築することで、すべての人が公平に医療を受けられる社会を実現したいです。

## 公衆衛生と政策研究、起業家精神を 組合わせた学際的アプローチを学び 医療システムにイノベーションを



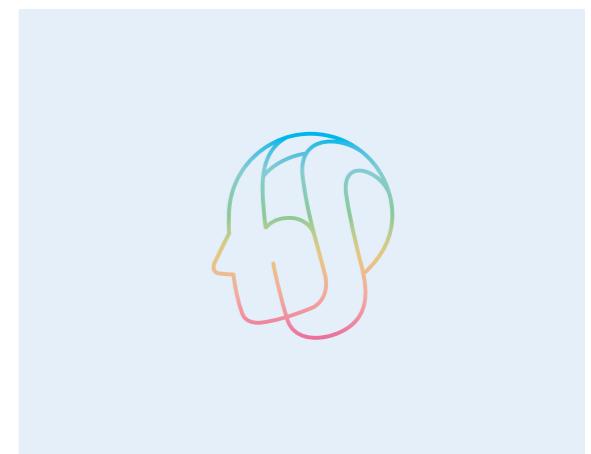
ミャンマーで総合診療医をしていた私は、不安定な情勢における非感染症疾患や公衆衛生システムの非効率性、規制の障壁などに対する取組において、医療政策の実装とイノベーションの間に大きな隔たりを目の当たりにしてきました。SHIは、公衆衛生、ビジネス、アントレプレナーシップ、政策研究を組合わせたユニークな学際的アプローチで際立っており、医療システムの変革を推進したいという私の願望と一致しています。公衆衛生のイノベーションと政策分析に焦点を当てた授業では、医療システムを批判的に評価する能力が高まり、学際的な協働と公衆衛生の課題に取組むためのイノベーティブなアプローチの重要性に対する理解が深りました。修士課程の研究テーマは老年学で、特に、生活習慣が認知症の発症にどのように関係しているかを研究しています。修了後は、発展途上国における感染症、非感染症疾患、高齢化問題の三重苦に対処するために、これらの知見をリソースが限られた環境に、どのように適応させられるかを探究したいと考えています。

在学生 **Aung Thet Ooさん**  
履修モデル リサーチャー／アドミニストレータ

ミャンマーで医学士の学位を取得した後、多国籍製薬会社での勤務、地域コミュニティでの診療、医療施設での管理勤務など、総合診療医として豊富な実務経験を積み、来日。SHI入学後は、主に生活習慣と認知症発症との関係を研究している。

## 学び通すには、一番初めが一番辛い 後になるほど楽になる そこを把握しておくことがポイント

SHIに入学したのは、科学的には実証されていない東洋医学や伝統的な生活習慣、芸術、文化のなかに人が健康になるヒントが埋まっていると考えていて、それらを社会に実装するための知識、経験を得たいと思ったからです。ヘルスケア分野における課題感があって、それを解決するために学びたい意欲があればSHIはそれに応えくれます。オンラインでの学習環境も充実しているので仕事とも両立やすい体制があります。学び通すには、一番初めが一番辛い、後になるほど楽になると自分に言い聞かせることができると感じています。特にイノベーションという視点も含めると、現在の臨床業務に存在する課題を、今の自分が提供できる解決策だけではなく、社会に潜んでいる革新的なアイデアや技術でもって乗り越えることができないだろうかと考えられるようになりました。将来的には東洋医学の社会実装、認知症領域の課題解決に取り組みたいですね。



在学生 **吉田 勝臣さん**  
履修モデル リサーチャー

精神科専門医・指定医として認知症診療を行っている。SHI初年度、フルタイムでの病院勤務は大変困難だった。修士課程ではウェアラブルデバイスを用いたストレスと睡眠の関連性を研究テーマにした。博士課程では、天体情報と健康の関連性についてウェアラブルデバイスを用いて研究する予定。

# 教員紹介

より詳しい  
教員情報は  
こちら



研究室紹介は  
こちら



研究科長  
**鄭 雄一**

担当科目  
未病特論/フィールド実習/ヘルスイノベーション演習基礎/ヘルスイノベーション演習 ほか  
研究・専門分野  
人間工学/人間情報学/社会医学



副研究科長  
**島岡 未来子**

担当科目  
アントレプレナーシップI(アイデア創出) / アントレプレナーシップII(ビジネスモデル仮説検証) ほか  
研究・専門分野  
起業家教育 / 非営利組織経営 / ステークホルダー・マネジメント / 協働ガバナンス



教授  
**津野 香奈美**

担当科目  
健康行動科学 / 社会健康学・社会疫学 / 産業保健学 / 産業保健学演習 ほか  
研究・専門分野  
社会疫学 / 精神保健学 / 行動科学



准教授  
**下畠 宣行**

担当科目  
医療技術評価 ほか  
研究・専門分野  
医療技術評価 / 医療機器研究開発 / バイオマテリアル



准教授  
**Thomas Svensson**

担当科目  
疫学概論 / アカデミックプレゼンテーション ほか  
研究・専門分野  
睡眠疫学 / デジタルヘルス / プレシジョンヘルス / 生活習慣病



准教授  
**中田 はる佳**

担当科目  
ヘルスイノベーションにおけるRRI・I ほか  
研究・専門分野  
研究倫理 / 保健学



教授  
**徳野 慎一**

担当科目  
環境保健学 / 産業保健学 / 産業保健学演習 / 健康危機管理論 ほか  
研究・専門分野  
社会医学 / 災害医学 / 医療工学 / 音声病態分析学



教授  
**成松 宏人**

担当科目  
疫学研究(英語) / 疫学演習(英語) / 研究の技法 ほか  
研究・専門分野  
医療経済学 / 医療政策  
臨床疫学 / 公衆衛生学 / 個別化医療



教授  
**Yoo, Byung-Kwang**

担当科目  
健康教育劇場 (Health Education Theater) ほか  
研究・専門分野  
疫学 / 预防医学 / 地域保健 / がん疫学



准教授  
**中村 翔**

担当科目  
疫学研究 / 疫学演習 ほか  
研究・専門分野  
疫学 / 预防医学 / 地域保健 / がん疫学



講師  
**久保田 悠**

担当科目  
口腔保健特論 ほか  
研究・専門分野  
口腔衛生学 / 预防歯科学 / 国際歯科保健学



講師  
**黒河 昭雄**

担当科目  
ヘルスイノベーション概論 / レギュラトリーサイエンス概論 / 政策分析・政策立案演習 ほか  
研究・専門分野  
行政学 / 公共政策 / レギュラトリーサイエンス / 医療イノベーション政策 / 科学技術イノベーション政策



教授  
**吉田 穂波**

担当科目  
ヘルスコミュニケーション / 健康危機管理論 ほか  
研究・専門分野  
母子保健 / 産婦人科学 / ヘルスコミュニケーション / 健康危機管理 / 子育て支援



教授  
**渡邊 亮**

担当科目  
健康・医療政策 / ヘルスケア管理学 / 未病社会のライフケア ほか  
研究・専門分野  
応用統計 / 疫学 / 機械学習 / 研究データ基盤  
保健医療管理 / 保健医療政策 / 管理会計



准教授  
**一原 直昭**

担当科目  
生物統計学基礎 / 生物統計学実践 ほか  
研究・専門分野  
公衆衛生学 / 老年学 / 健康科学 / 地域保健



講師  
**根本 裕太**

担当科目  
フィールド調査・研究方法 ほか  
研究・専門分野  
生物統計学 / 疫学 / グローバルヘルス



講師  
**Md. Shafiqur Rahman**

担当科目  
生物統計学基礎 / 統計プログラミング / 生物統計学実践 / 國際保健政策 ほか  
研究・専門分野  
生物統計学 / 疫学 / グローバルヘルス



助教  
**Yichen Shen**

担当科目  
医療経済学 / データサイエンス ほか  
研究・専門分野  
医療経済学 / 教育経済学 / 医療政策

※教員は、追加・変更となる場合があります

# 招聘教授・客員教授



## 招聘教授

### アサモア・バー 氏

元WHO事務局次長

All over the world, people are living longer. People's expectations from life are getting higher. More and more people expect to have productive, independent, high quality and enjoyable time post retirement.

For most people the ME-BYO concept is a better reflection of their health status than the binary concept of either you are healthy or sick. The ME-BYO recognised that diet, exercise, people's proactive participation and engagement in social activities to maintain good health and prevent the onset or further progression of disease are as important as technology and medical interventions in preserving and maintaining a healthy life. Unfortunately, this is neither the current health paradigm nor current practice. Therefore establishing an academic institution that will challenge the current orthodoxy, help promote the ME-BYO concept and train the next generation of health leaders and health innovators is a very welcome initiative.

I congratulate the Kanagawa Prefecture for this initiative and salute and applaud Governor Kuroiwa for his foresight and leadership. I am particularly pleased that Kanagawa Prefecture is collaborating with international health organizations such as the World Health Organisation. Hopefully this will provide a broader platform to share the Kanagawa experience with the rest of the world, in the spirit of universal health coverage and not leaving anyone behind.



## 客員教授

### 森田 朗 氏

担当科目  
健康・医療政策

研究・専門分野  
行政学  
公共政策



## 招聘教授

### タカシ・キヨイズミ 氏

サンディエゴ在住のエンジェル投資家・  
バイオベンチャー起業家

少子高齢化が加速的に進む今日の社会で渴望されている人材は、ヘルスイノベーションを推進し、駆使して健康社会を牽引していくリーダーです。グローバル化が加速している現代では、ヘルスイノベーションは世界中の人々の健康と幸せに大きく貢献します。新規技術は、社会実装が可能になって初めてイノベーションとなります。

殷町からグローバルに羽ばたく次世代のイノベーターを育成するイノベーション研究科(SHI)、大いに期待するとともに心より応援しています。



## 招聘教授

### 角 由佳 氏

WHOメディカルオフィサー

国連『健康な高齢化の10年』(2021-2030) <<https://www.who.int/initiatives/decade-of-healthy-ageing>>は、政府、市民社会、国際機関、専門家、学術機関、メディア、民間など多様なセクターや関係者が集まり、“すべての人々が健康で長く生きられる世界”を実現する機会となっています。COVID-19の流行期間中、テクノロジーの活用は、高齢者やその家族、コミュニティの健康と福祉をサポートする有用な手段として注目されています。健康な高齢化(Healthy Ageing)のためには、公衆衛生、テクノロジー、イノベーションに関する知識と専門性の息吹を持ったリーダーシップが緊急に必要です。近い将来、皆さんと一緒に仕事ができることを楽しみにしています。

## 応援メッセージ



### 黒岩 祐治 氏

神奈川県知事

人生100歳時代を迎え、この圧倒的な超高齢社会を乗り越えるため、神奈川県では未病というコンセプトのもとで、様々な課題解決に向けた取組みを進めています。

こうした中、県立保健福祉大学がヘルスイノベーションスクールにおいて、高齢化などによって生じる諸課題の解決に貢献できる人材をこの神奈川から輩出していくことは、大変心強いことです。このスクールで学んだ学生が未病コンセプトを理解し、笑いあふれる100歳時代の実現に向けて、様々な場で活躍していただくことを大いに期待しています。



### 鈴木 寛 氏

東京大学大学院教授・慶應義塾大学大学院教授  
神奈川県立保健福祉大学理事 神奈川県参与

ヘルスイノベーションスクールは、従来の公衆衛生大学院とは異なり、産官学の共創のもとに、未病をはじめとする新たな領域の開拓とソーシャル・イノベーションを起こす人材の輩出を目指す世界初の大学院です。今日、社会のあり方が大きく変わりつつある中、この国の新たな社会像を具体的に構想し、実際にプロデュースしていくような人材が、このSHIという「場」を通じて育っていくことを大変楽しみにしております。

SHIの今後の発展と教職員・学生の皆様の益々のご活躍を期待いたします。

# メッセージ

未病を学び、未病を究める

公立大学法人  
神奈川県立保健福祉大学 理事長

## 大谷 泰夫



神奈川県黒岩祐治知事の提唱による「未病」という新しい健康観を背景として、県の全面的な支援の下に他に類を見ない独創的大学院「ヘルスイノベーションスクール」が2019年4月に開設されました。

このスクールは、保健・医療・福祉分野において社会システムや技術の革新、産業の創出を起こすことができる人材の育成と研究の推進を目指した全く新しい教育研究機関です。

これまで、神奈川県をはじめ、産業界や教育研究機関、行政などの様々なアクターと幅広くネットワークを結びながら、国際的にも通用する人材の輩出や、課題を解決する研究を進めてまいりました。

人生100歳時代を迎える中で、さらに、新しい発想や手法を具備した多くの優れた人材や研究を殿町の地から誕生させ続けたいと考えております。ヘルスイノベーションスクールにおける新しい社会づくりへの挑戦に多くの皆様の参画とご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

ヒューマンサービスを

公立大学法人  
神奈川県立保健福祉大学 学長

## 村上 明美



神奈川県立保健福祉大学は、ヒューマンサービスをミッションに掲げ、保健・医療・福祉の連携と総合化、生涯にわたる継続教育の重視、地域社会への貢献を基本理念としています。

わが国では急速に少子高齢化が進み、人口減少や感染症の流行、自然災害の多発など、多様な社会問題が顕在化しています。いのちの誕生から終焉まで「ひと」の生涯を通じ、健康や生活に携わる保健・医療・福祉人材の活躍が大きく期待されています。近年、科学は急速な進歩を遂げましたが、それに伴って生じた専門分化は、専門的視座からの部分解釈を促進しヒューマンサービスの根底にある「ひと」をホリスティック（全人的）にとらえることを難しくさせました。

2019年に開設した大学院ヘルスイノベーション研究科（SHI: School of Health Innovation）では、新たな健康観として神奈川県が打ち出す「ME-BYO（未病）」コンセプトに基づく社会システムや技術の革新を起こすことができる人材の育成を目指しています。そして、地域や産業界との連携に重点を置いて、研究成果の社会実装に注力していきます。

SHIでは、「ひと」をホリスティックに支援する課題についてイノベーションの切り口から取り組み、「人生100歳時代」を先導するイノベーターとしての力を存分に磨いてください。

# 入学案内

## 修士課程 アドミッション・ポリシー

健康寿命の延伸や未病を改善して市民一人一人が生きがいを持った人生を送ることができる社会を実現するために、既存の概念にとらわれない課題解決の方策を提示できる人材が強く求められるなか、本修士課程では、起業家精神を持ち、科学的根拠に基づいたアプローチによって社会変革に意を尽くすことができる人材を養成し、国内外に輩出することを目指しています。そのために、本修士課程では、下記のような人材を受け入れます。

1. 保健・医療・福祉の改善を通じて、人が生きがいを持った人生を送る社会を構築することに強い意欲がある者
2. 社会的課題に対する関心を有し、論理的・科学的思考に基づいた課題解決を志す者
3. 多様な背景を持った人や組織における課題について、多面的視点による解決策を提示しようとする者
4. 既存の視点枠組みにとらわれず、新たな観点から大胆な課題解決策の提示を行い、実行することができる者

入学者選抜試験では、以上の観点に立って、書類選考においては志望動機書や小論文等により意欲や専門知識などを、面接選考においては課題の解決へ向けて意欲的に研究に取り組もうとする力を、総合的に評価します。

## 出願時期 修士課程・博士課程共通

	第Ⅰ期募集	第Ⅱ期募集
出願期間	2025年9月1日(月)～10月9日(木)	2025年12月15日(月)～2026年1月15日(木)
書類選考合否発表	2025年10月31日(金)	2026年2月6日(金)
面接選考	2025年11月9日(日)	2026年2月15日(日)
面接選考合否発表	2025年11月19日(水)	2026年2月26日(木)

※詳細は募集要項をご参照ください。第Ⅰ期募集で定員を充たした場合、第Ⅱ期募集は行いません。

## 検定料・学費 修士課程・博士課程共通

	神奈川県内在住	神奈川県外在住
検定料	30,000円	
入学料	141,000円	282,000円
授業料(年額)	535,800円	

※本学学部を卒業した者（卒業見込みの者を含む）又は本学大学院を修了した者（修了見込みの者を含む）は、入学金を全学免除します。

## 博士課程 アドミッション・ポリシー

健康寿命の延伸や未病を改善して市民一人一人が生きがいを持った人生を送ることができる社会を実現するために、既存の概念にとらわれない課題解決の方策を提示できる人材が強く求められるなか、本博士課程では起業家精神を持ち、公衆衛生の視点による科学的根拠に基づいたアプローチによって社会変革に意を尽くし、未来を牽引することができる国際的高度専門人材を輩出することを目指しています。そのために、本博士課程では、下記のような人材を受け入れます。

1. 保健・医療・福祉の改善を通じて、人が生きがいを持った豊かな人生を送ることができる社会を構築し、国際社会に貢献することに強い意欲がある者
2. 社会で得られた経験に基づいて、保健・医療・福祉分野における具体的な課題意識を有し、その課題に対して既存の視点に枠組みにとらわれず、かつ論理的・科学的思考に基づいて解決を志す者
3. 医学・歯学・薬学・保健学・公衆衛生学・看護学・工学・経済学・経営学など、様々な専門分野における博士前期課程（修士課程）修了に相当する一定程度の専門知識や研究能力および語学力を有し、倫理観の高い研究を遂行できる者

入学者選抜試験では、以上の観点に立って、書類選考においては志望動機書や小論文等により意欲や専門知識などを、面接選考においては課題の解決へ向けて意欲的に研究に取り組もうとする力を、総合的に評価します。

## 教育訓練給付制度

本研究科の修士課程が専門実践教育訓練講座に指定されました。一定の条件を満たす場合、入学料・授業料等の一部が支給されます。申請条件、申請方法等詳細については、厚生労働省のHPをご覧ください。  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kouyou\\_roudou/jinzaikaihatsu/kyouiku.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kouyou_roudou/jinzaikaihatsu/kyouiku.html)

 本修士課程では、文部科学大臣認定「職業実践力育成プログラム（BP）」を取得しています。

# イノベーション政策研究センター

## 川崎(殿町)キャンパス

### イノベーションの社会実装を目指す シンクタンク

イノベーション政策研究センター(CIP)は、ヘルスイノベーション研究科の教育研究の取組を活かしつつ、政策立案の支援や学術研究・社会実装の推進に機動的に対応するため、全学の附置機関として、シンクタンク機能を担う組織です。

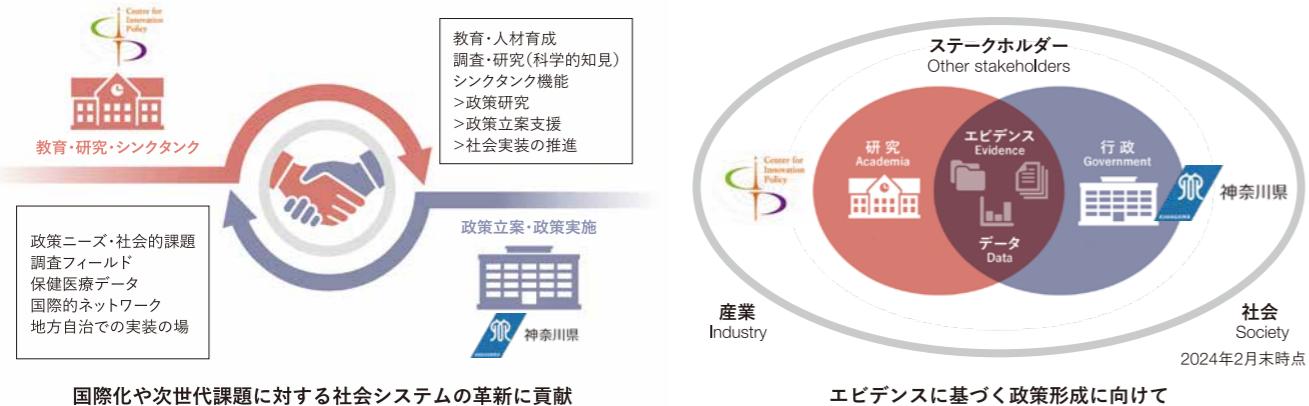
保健・医療・福祉に関する政策研究や提言を行うとともに、革新的未病産業・ヘルスケア産業を活性化していきます。また、学術的な研究と実社会の課題とのマッチングを行い、イノベーションの社会実装を推進します。

### ミッション

国内外のアカデミア、企業、行政等といった多様なステークホルダーとの協働のもと、科学的根拠に基づく領域横断的かつ革新的な研究活動を推進し、その成果の社会実装に取り組むと共に、根拠に基づいたヘルスイノベーション政策の実現に向けた政策立案・支援を行うことにより、人々が健やかな人生を送ることができる社会の構築に寄与することを目指します。そのため、本センターは、主に以下のような研究・業務を推進します。

### 神奈川県との連携

未病に関する基盤的研究の推進や保健医療データに基づく研究の推進など、イノベーション政策研究センターにおける活動の多くは神奈川県との強い連携のもとに推進されています。こうした行政との協働を通じた研究の推進を通して、エビデンスに基づく政策形成の実践に貢献することを目指します。



### センター長挨拶



神奈川県立保健福祉大学イノベーション政策研究センター センター長 成松 宏人

CIPは、大学のシンクタンク機能を発揮するために、「イノベーション」を合言葉に科学的根拠に基づく政策立案支援や、研究成果の社会実装を担っています。例えば、自分の未病の状態を自ら簡単に知ることができる未病指標は、神奈川県との協働のもと、丁寧なフィールド調査により科学的なエビデンスの構築及び社会実装が進められています。直近では、当センターはこの指標を精緻化するためのデータ収集および解析を進めるとともに、新たに未来予測機能を開発しました。また、自治体が有する保健医療データの利活用や新型コロナウイルス感染症をはじめとした各種感染症への対応など、公衆衛生の果たす役割がますます重要となっています。これまで以上に、大学の研究成果を生かし、行政や保健・医療・福祉の現場に、時にはそれらの現場と協働しながら、時宜を得た提言、そして、その実装が当センターに期待されています。特に、神奈川県内のコロナ感染予測モデル実装や、自治体が所有する保健医療データの活用ではその具体的な成果をあげつつあります。私たちは、これからも、革新的な研究活動を地域や産業と連携して推進するエンジンとしての役割を果たし、そして、誰もが輝ける健長寿社会の実現に向けて前進していきます。



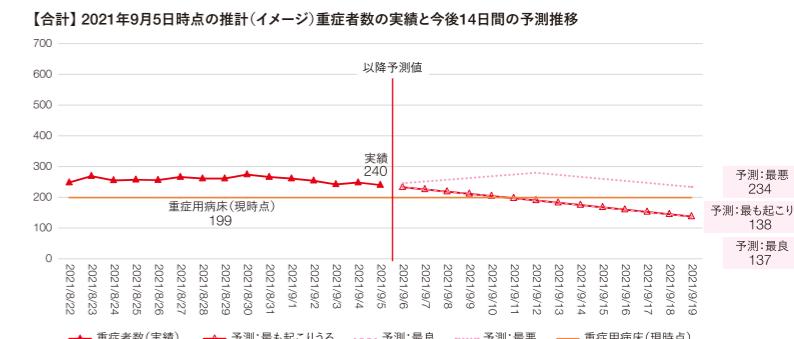
### 事業概要



- 保健・医療・福祉の領域における、未病の考え方やデータの利活用推進等、最新の状況をふまえた政策研究の推進
- 行政、民間等との共同研究及び受託研究等の推進
- 調査研究成果の情報発信及び政策提言の実施
- 産学連携の取組に係る事業の推進

### 政策形成への貢献・政策提言

神奈川県と連携してCOVID-19の予測に関する「簡易モデル」「主要モデル」を開発し、神奈川県における感染症対策に貢献しました。また、マスク・ガイドラインの改訂に関する政策提言を行うなど、CIPは研究プロジェクトの推進のみならず、政策形成への貢献を目指した活動を展開しています。2022年からは神奈川県などと協働して「下水道疫学」研究を実施。2023年に全数調査が終了したCOVID-19の感染状況を、下水サンプルを用いて把握する手法は、全国的にも注目を集めています。



### 多様な教育機会の提供

CIPでは、学位課程以外の形での様々な「学び」に対する社会的なニーズを捉え、セミナーやシンポジウム、公開講座等の形で多様な教育・研修機会を積極的に提供していきます。



- 市町村・保健所職員を対象とした保健医療データの利活用研修
- 企業・行政職員を対象とした公衆衛生学の基礎に関する講座
- ヘルスケアビジネスディベロップメントワークショップ

### 产学研連携の推進

CIPは、行政のみならず、企業と連携して产学研連携プロジェクトを推進しています。働く女性を対象にした健康実態や就労環境との関連性に関する疫学調査を実施し、データ解析を行うことにより、「働く女性 健康スコア2024」の取りまとめと提言に貢献しました。



### 研究プロジェクト(2025年度)

CIPにおける研究活動は、プロジェクトベースで推進されており、ほぼすべてのプロジェクトにおいて行政・企業・他大学との連携がはかられています。様々なステークホルダーとの連携を通じたプロジェクト推進により、研究成果の創出のみならず、社会実装に向けた新たな価値の創出を目指します。

プロジェクト名
1 未病指標プロジェクト(神奈川県協働事業)
2 「職域・地域コミュニティ」ハイブリッド型社会的孤立予防プロジェクト
3 保健医療データ活用プロジェクト
4 女性の健康プロジェクト
5 預防医療教育プログラムの開発と評価
6 eスポーツによる介護予防効果の検討
7 神奈川県における健康的地域格差要因の解明
8 新型コロナウイルス・パンデミックの公衆衛生対策
9 地方公共団体による公立病院への財政資金投入とアウトカムに関する研究
10 がん情報活用プロジェクト
11 精神疾患における適切な医療の促進に関する研究
12 福祉における支援者支援の在り方に関する研究
13 介護現場における生産性向上に関する研究
14 県立障害者支援施設における健康状態・栄養状態の把握と効果的な支援に関する研究
15 ヘルスケア分野におけるイノベーションの推進施策の研究